

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者[※]の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名></p> <p>小児期発症の神経性やせ症における体重回復前後の内分泌合併症と脳血流の関係</p>
<p><研究機関・研究責任者名></p> <p>日本大学医学部小児科学系小児科学分野（附属板橋病院小児科）主任教授（部長）森岡一朗</p>
<p><研究期間></p> <p>機関の長の初回許可日 ～ 令和 10（西暦 2028 ）年 3月 31日</p>
<p><対象となる方></p> <p>2014年5月1日から2025年5月31日に当院小児科に神経性やせ症の治療目的に入院した方</p>
<p><研究の目的></p> <p>神経性やせ症は身体像のゆがみ、持続的な食事制限、低体重を特徴とする疾患です。持続的な食事制限により飢餓状態となり、多くの臓器系に影響を及ぼします。影響を特に受ける臓器として、内分泌器官と脳機能が挙げられ、これらの合併症フォローは重要です。しかし、小児期に発症した神経性やせ症患者さんにおける内分泌異常と脳血流の直接的な関係については知られておらず、治療による体重回復前後での関係も知られていません。そのため、どの臓器をいつ頃、どのような形で評価していくことに対する明確な指標はなく、各医療機関が経験に基づき評価を行っています。本研究では治療による体重回復前後で、内分泌合併症と脳機能にどのような関係があるか、実際に治療を行った電子カルテデータから比較していきます。</p>
<p><研究の方法></p> <p>2014年5月1日から2025年5月31日に当院小児科に治療目的で入院した神経性やせ症の方の電子カルテデータから後方視的にデータを抽出します。治療による体重増加前後の甲状腺ホルモン値、デキサメサゾン抑制試験によるコルチゾール値、SPECT検査による脳血流の変化を統計学的に分析します。</p>
<p><研究に用いる試料・情報の項目></p> <p>電子カルテデータから入院時の性別、年齢、身長体重、肥満度や、治療中の体重推移、肥満度推移を抽出します。また、血液検査、SPECTやMRI画像検査、心電図、バイタルデータを分析します。</p>
<p><お問い合わせ窓口></p> <p>日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町30-1） 小児科 徳永航 電話：03-3972-8111 内線：2442</p>

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方

研究に関する情報 公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<p>＜研究課題名＞ 小児期発症の神経性やせ症における体重回復後の内分泌合併症と脳血流の関係</p>
<p>＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部小児科学系小児科学分野（附属板橋病院小児科）主任教授（部長）森岡一朗</p>
<p>＜研究期間＞ 責任者の初回許可日 ～ 令和 10（西暦 2028）年 3月 31日</p>
<p>＜対象となる方＞ 2014年5月1日から2025年5月31日に当院小児科に神経性やせ症の治療目的に入院した方</p>
<p>＜対象となるお子様にむけて（中学生向け）＞ 神経性やせ症は自分の体の見え方が実際とずれてしまい、食事を制限することで、体重が低くなる病気です。体を調節するホルモンや、脳を流れる血液量に影響します。小児期に発症した場合に、体を調節するホルモンと、脳を流れる血液量が、どのように関係しているかは、まだ十分にはわかっていません。そのため、どの臓器を、どの時期に、どのような検査で確認すればよいかについて、はっきりした目安はありません。この研究では、治療で体重が回復する前と後を比べ、体を調節するホルモンの変化と、脳の血液の流れに、どのような関係があるかを調べます。</p>
<p>＜研究の方法＞ 2014年5月1日から2025年5月31日に当院小児科に入院した神経性やせ症の人の治療の記録を調べます。具体的には、体重が増える前と後で、体を調整するホルモンと、脳を流れる血液量を比べます。集めたデータを、偶然の違いか、意味のある違いかを判断するための方法で分析します。</p>
<p>＜研究に用いる試料・情報の項目＞ 電子カルテデータから入院時の性別、年齢、身長体重、肥満度や、治療中の体重、肥満度を確認します。また、血液検査、画像検査、心電図、バイタルデータを分析します。</p>
<p>＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町30-1） 小児科 徳永航 電話：03-3972-8111 内線：2442</p>

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

- ①研究を実施される方
- ②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方

けんきゅう かん じょうほうこうかい 研究に関する情報 公開

ひと たいしやう せいめいかがく いがくけいけんきゅう かん りんりしん もと けんきゅう じつじ じょうほう こうかい
 <人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開し
 ます。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究

計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご
 了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の<お問い合わせ窓口>
 までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名> 小児期発症の神経性やせ症における体重回復前後の内分泌合併症と脳血流の関係</p>
<p><研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部小児科学系小児科学分野（附属板橋病院小児科）主任教授（部長）森岡一朗</p>
<p><研究期間> 責任者の初回許可日 ～ 令和 10（西暦 2028）年 3月 31日</p>
<p><対象となる方> 2014年5月1日から2025年5月31日に当院小児科に神経性やせ症の治療目的に入院した方</p>
<p><対象となるお子様にむけて（小学生向け）> 神経性やせ症は、「もっとやせたい」「自分は太っている」と強く思ってしまう、食事を十分にとれずに、体重 がとても少なくなる病気です。食事が足りない状態が続くと、体のいろいろな部分に影響が出ます。とく に、体の調子を整える働きや、脳の働きが変わることがあります。子どもの頃にこの病気になった人で、体 の調子を整える働きと、脳へ流れる血の量がどのように関係しているかは、まだよくわかっていません。そ のため、どの時期に、どの検査をすればよいかは、病院ごとに考えながら行っています。この研究では、治療 で体重が増える前と後で、体の調子を整える働きと、脳の働きにどのような関係があるかを、病院の記録を もとに調べます。</p>
<p><研究のやりかた> 2014年5月1日から2025年5月31日に当院小児科に入院して治療した神経性やせ症の人の記録を調べま す。体重が増える前と後で、体の元気さに関わる物質や脳へ流れる血の量の変化を比べます。</p>
<p><研究に用いる試料・情報の項目> 電子カルテデータから入院時の性別、年齢、身長体重、肥満度や、治療中の体重、肥満度を確認します。 また、血液検査、画像検査、心電図、バイタルデータを分析します。</p>
<p><お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町30-1）小児科 徳永航 電話：03-3972-8111 内線：2442</p>

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

- ① 研究を実施される方
- ② 研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方